エチケット、マナー、ルール特集

ゴルフは何より、エチケットとマナーが求められ、さらにルールの判定をめぐって、プレーヤー自身が自己責任で処理するという、他のスポーツに類を見ない競技です。つまり、紳士・淑女以外のプレーを元来想定していないといえるでしょう。
燦木会が数ある同好コンペを凌駕するのも、実にこの点の品位と・格調にあると思います。燦木会の皆さんは、もとよりご承知でしょうが、改めてルールやマナーを再確認するのも良いことと思い特集しました。

競技委員長より一言　　燦木会幹事（競技委員長）　中川　彊

ゴルフは正しいルールのもと、エチケットとマナーを守って気持ちよくやりたいですね。
皆さん十分理解してプレーをされていることと思いますが、勘違いとか正確には…と云うことも、ちらほらあるかと思いますのでその辺をもう一度確認しましょう。
★OBについて／白杭と白杭の内側の線に触れていれば「セーフ」　★アンプレヤブル／「自分の意思で宣言出来る」 アンプレアブルノの処置は、ワンペナで、
1）元の位置からプレー　2）2クラブレングス以内で、ホールに近づかない区域にドロップ　3）ボールとホールを結んだ線の延長線上、後方はどこまでもOK。の3通りがある。
★1クラブレングスと2クラブレングスについて／1）1ペナを付加される場合は「2クラブレングス以内」　2）ノーペナの場合（例えばカート道路のボールをドロップ）は「1クラブレングス以内」にボールをドロップすると覚えれば良いですね。
★ニヤレスト・ポイント／救済を受ける場合でニヤレスト・ポイントを決める際、次に使うクラブでアドレスして決定する。ニヤレストポイントにマークし、ドロップエリアを決めるときは、好きなクラブ（ドライバーでも可）で計ることになる。誤解しやすいですね。
★最後に「そんなの、ありい?　」と云うのを紹介しましょう。
木の根元の向こう側にボールがあり、自分は右打ちだけど左打ちなら打てると判断してスタンスを取ったら、足がカート道路にかかるのでノーペナでドロップしたところ、右でも打てる様になったのでそのまま右で打った。これでも良いということです。規則24－2bに出ています。たまにこんなケースありませんか?　　まだまだ色んな状況がありますが、また次回確認したいと思います。

日本ゴルフ協会の著作物

JGA（日本ゴルフ協会）では、様々な出版やイベント、ホームページを通して、広くアマチュアゴルファーのマナー・ルール向上の啓蒙活動を行っています。（http://www.jga.or.jp/jga/jsp/index.html）
ここに挙げた例は、非売品の「これだけは知ってコースへ」の前文ですが、JGAのホームページからダウンロードできます。またルールの全ても公開していますので、ぜひご参考になさってください。

ゴルフ規則の本質と精神について

数あるスポーツの中でゴルフ競技の大きな特徴の1 つは、通常、審判員が立ち会わないということです。このことは、ゴルフがフェアプレーを重んじるスポーツであって、「ゴルファーはみな誠実であり、故意に不正をおかす者はいない」という基本的な考え方を表しています。またゴルフ規則書に規定されている罰則は、ゴルフ規則を知らなかったり過失によってその処置を誤ったプレーヤーに対して、競技全体の公平さをはかる観点から決められています。つまり、ゴルファーの1 人ひとりには、ゴルフ規則を正しく理解し、自主的に規則を守ることが求められているのです。
ゴルフ規則書の裏表紙には、次のような言葉が記されています。
球はあるがままにプレーせよ　　コースはあるがままにプレーせよ　　それができないときは、最もフェアと思う処置をとる
最もフェアと思う処置をとるためには、ゴルフ規則を知る必要がある
ゴルフの基本は、「球もコースもあるがままでプレーする」ということです。しかし、コース上では、「あるがままでの状態でプレー」できない状況にしばしば遭遇します。例えば: 球がOB に飛んでいったり、池に入ったり、排水溝に入ったり、他のプレーヤーが間違って球を打ってしまったり... 等々。そのような場合には、最もフェアと思う処置をとってプレーを続けるべきです。そしてそのためには、ゴルフ規則を知っておく必要があるのです。（これだけは知ってコースへ序文より）

良きゴルファーへのアドバイス本

私は、書斎のゴルファーでもあります（我が家に書斎はありませんが）。技術書はもう読む気も起こりませんが、ゴルフの歴史や偉大なゴルファー、ルール、マナー、世界の名コースなどの書籍は、今だ愛読書として座右から離せません。
ここでは、自信を持ってお勧めできる幾冊かの書籍をご紹介し、マナー・エチケット・ルールを識る「良きゴルファー」の一助としていただきたいと思っております。　　事務局　斉藤哲雄

まず、現在、日本で一番マナー啓蒙に積極的な、鈴木康之氏の著書を2冊。氏は長年コピーライターとして活動の傍ら、ゴルフマナー研究家としても著名な存在。ゴルフ関係の様々な組織に所属し、マナー啓発活動を行っています。
「ピーターたちのゴルフマナー」は、ハードカバーで実に読み応えがあります。本当に為になることばかり。なるほどネ、と感心しきりでした。
※ゴルフダイジェスト社刊
「ゴルフはマナーでうまくなる」は、日経ビジネス文庫の一冊。簡略化されていますが、間違いなくためになる本です。

著者の本條強氏は、ノンフィクションライターで、ゴルフトレンドの分析・批評家としても著名。
「口とカッコだけならシングルプレーヤー」というサブタイトルが示すように、腕前をファッションや用具、立ち居振る舞いでカバーしようとの講座。
でもこの本、思わずニヤリのマナー講座としても価値があると思いますよ。
※雄鶏社刊　新書版

夏坂健氏は、人も識るゴルフエッセイの大家。情熱と、ペーソスと、皮肉と、機知に富んだエピソードの数々は、まさに「読むゴルフ」の神髄と言えそう。数多い著作はいずれもおもしろいが、該博な知識ばかりでなく、マナーに極めて厳しく、近年のマナー崩壊を熱く嘆いている。私は非常に尊敬しています。　※日本経済新聞社刊
その他、文庫本など多数。

最後は、世界で最も尊敬されているゴルファーと云って過言でない、ボビー・ジョーンズの著書、「ダウン・ザ・フェアウェー」。終生アマチュアとして、1930年のグランドスラムを始めとする華麗な栄光に包まれたが、若くして難病に冒され、車椅子生活を余儀なくされた。その人間性、プロもかなわぬ技術、そしてルール・マナーへの厳密で誠実な取り組みなど、現役時代のエピソードは数知れない。
この本は、B.ジョーンズの第1著作。競技を引退した後、まだ30代で書かれたが、既に人間的にもゴルファーとしても大家の風貌と評される名著。アマチュアゴルファーのバイブルとして、長く読み継がれている。今をときめく「マスターズ」は、ジョーンズのアイデアと実行力から生まれたものだ。
※小池書院刊

燦木会会員名簿　　（五十音順・平成20年11月現在）

浅見　洋子	天野　望	石井寅三郎	海老沢　均	小川　和朗	荻原　博
荻原　育子	川上　敏夫	菊地原忠光	黒澤　街子	後藤　至彦	斉藤　哲雄
鹿倉　武久	下島　美範	鈴木　郁男	田尾　森郎	高尾　武	滝川　麗子
玉木　克彦	鳥飼　康子	中川　彊	中野　弘	中野真理子	西岡　守彦
野上　克明	林　忠夫	伴野　文夫	樋口　節子	三橋　弘道	宮川　克巳
森岡　茂孝	森田　忠夫	山沢　興英	米田　博一	米田　嘉明	ブルーは役員